

令和6年度 第1回 松本「シンカ」推進会議

日時：令和6年6月25日（月）

午後5時00分～

会場：第一応接室

（※欠席委員：林委員、清水委員、上野委員）

1 開会

2 座長あいさつ

3 議題

(1) 昨年度の内容の振り返りと今年度の取組み

事務局から説明

（昨年度テーマ：①グリーンインフラの推進について、②サイクルツーリズムの推進について）

(2) 令和5年度地方創生の取組み

事務局から説明

< (1) に関する主な意見 >

- ◆今一度「シンカ」とは何か、しっかりと考えなければいけないのではないかな。様々な事業がある中で、「何をやるのか」よりも「なぜやるのか」という背景が大切。
- ◆比較的目につきやすい事業が多い印象。本来目の届きにくい自然環境の部分に関する事業もやってもらいたい。
- ◆中心市街地だけが松本市ではない。どこに住んでいる人も等しく松本市民。山とまちをつなぐということが大事。何がどのようにつながっているのか、質的な部分も大事。
- ◆沢渡から上高地などバスだけが通行できるエリアにサイクリングロード整備はどうか。渋滞緩和にもなる。他所で行われているように、電動自転車のレンタルを行うなど、目に見えるところから始めるのも一つ。
- ◆里山に観光客が多く来て、オーバーツーリズムが起き、写真を撮って帰るだけになっていないか。里山にお金を落としてもらう仕組みが必要。そこに暮らす人がいる中で、里山を丁寧に扱って、観光だけでない場としてPRすることも「シンカ」につながるのでは。
- ◆トレンドになって一時的に人が来て、その後人が来なくなるというように、観光の世界は移りが早い。その場所に暮らす住民がいるので、誰のための政策なのか、という点も考えなければいけない。
- ◆“野外×こども”など、学生や若者が興味をもつキーワード・分野で事業を展開することで、人

材確保につながるのではないかと。

- ◆観光場所として松本城に一極集中の状況は変わっておらず、松本で需要の平準化ができるの良い。松本市に泊まってもらうことを考える。

<(2)に関する主な意見>

- ◆人に関わる数字は大切。転入者の数字を考えると、松本市が入ってきたいまちになっているのか。松本から出ていく、人が減っていくことによる問題がある。税金問題、人手不足問題。人が入ってきて、住んで、出ていかないまちにする。そのために何が重要なのか。何をポイントとしてやっていくのか。
- ◆転入者、転出者の属性がわかるとよい。データを活用できれば、ここでの議論が深まる。
- ◆外国人に住みやすい、選んでもらえるまちということを柱に進めている自治体もある。
- ◆若い女性の転出数が男性の倍で、さらに戻ってこない。若い女性をターゲットとした施策を掲げるためには、若い女性に議論をしてもらうのが良い。ターゲット層を絞る。
- ◆エビデンスが不足している。とれるべきデータがあるにも関わらず、有効に活用できていないように感じる。人口のデータについても、傾向はわかるが、内情がわからない。単純な分析だけでなく、因果関係なども見ていけるとよい。
- ◆外からの松本市の教育に対する評価は高い。過去の光に守られている部分もあるが、今はどうか。
ただ、過去のブランディングをこれからも生かしていくことは重要。
- ◆元々あった「三ガク都」を「シンカ」させるということについて、これから先（未来）につながるような質的な「シンカ」が必要なのではないか。非日常から日常へ。施策が日々の生活の充実に寄与し、それを積み重ねていくことで「住みたいまち」につながる。東京圏より時給が少し安くても「松本に暮らしたい」と思ってもらえるように生活全体を考えていくことが大事。
- ◆人口24万人に向けて人口を増加、維持すれば良いだけでなく、できれば若者に来てもらう。そのためには若者や子育て世代に向けた政策の展開など、課題ややるべきことが見えてくるのではないかと。若者や子育て世代が松本への移住に踏み切れない原因を把握するなど。
- ◆エビデンスとして結果が出ている部分は見直し、対策をしていかなければならない。

(3) その他・・・特になし

4 閉会

次回会議については事務局から改めて連絡